〔論文〕

イエスの友会と賀川豊彦による神の国運動（４）

――農民福音学校――

黒　川　知　文

〈目　次〉

はじめに
１．農民福音学校の目的
２．農民福音学校の開始
３．農民福音学校の教育
４．立体農業
５．農民福音学校の進展

はじめに

日本の1920年代は，関東大震災（1923年），昭和金融恐慌（1927年），世界恐慌の影響（1929年以降）と危機的な経済状況にあった．1930年以降は東北地方に大飢饉が起こり，農産物の価格が暴落し小作争議も頻発した．このような状況において1922年４月９日に，賀川豊彦と杉山元治郎により日本農民組合創立大会が神戸市基督教青年会館においてもたれた．杉山元次郎が初代組合長を，賀川豊彦が労働農民党中央実行委員長であった．だが，マルクス・レーニン主義者の参加による農民運動の急速な左傾化により，二人は「ヤソの坊主共が机の上で作った農民組合が何になる」「街へ帰れ，天国に帰れ」等の野次を受けて1927年に辞職した[(1)]．

１．農民福音学校の目的

1927年１月に，賀川と杉山が協力して結成されたのが，農村伝道団であった．趣意書によれば，理事は杉山元治郎，賀川豊彦，吉田悦蔵，村島帰之，小川喚三，矢部喜好，吉田源治郎であった．理事の多くはイエスの友会会員であった[(2)]．賀川は趣意書において以下のように述べている．

> 日本には一万三千の村々があってそこには日本の総人口の五割以上が住んでゐる．然るに是等の人々は，殆どキリスト教の福音に接してゐない．キリスト教が如何に都会を救済し得ても今日の如く農村を見過ごしにしては真の日本の教化を期することは出来ない．殊に農村にはイエスが心を用ひられた貧しい人々がゐる．多くの悩める人がゐる．故に農村伝道を為さすしてはイエスの御精神に応はないと信ずるのである[(3)]．

キリスト教により農村を改善していくことを賀川は訴えていることがわかる．また，「日本農村の宗教的改造と建設」をするために，以下の具体的な事業を五つ挙げている[(4)]．

1　農民福音学校の開設（農閑期に開校）
2　文書伝道（伝道用パンフレット雑誌発行）
3　講師派遣（神学校，都市教会その他への要求に応じて）
4　農村伝道（直接伝道後援）
5　農村セツルメント事業の普及

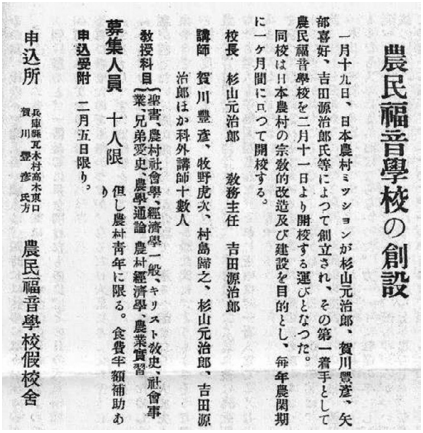
このように農村伝道団最初の事業が，農村福音学校の開設であったことが分かる．その目的は「日本農村の宗教的改造と建設」にあった．「宗教」とはキリスト教のことである．キリスト教伝道による農村の改善が，農民福音学校の目的であった．

2．農民福音学校の開始

杉山元治郎は1926年12月に労働農民党中央執行委員長を辞し，1927年１月に日本農民組合組合長を辞すと，２月に兵庫県武庫郡瓦木村に移転通知を出している．そして農民福音学校を開設した．（図１参照）

農民福音学校の略則には以下のように記されている．

農民福音学校は名は学校であるが寺子屋である．デンマークのグルンドヴィッヒの精神に従うてやるもので，人格と人格の接触する教育の道場である．故に，すべては自治的で本人の修養に待つことが多いのである．教室もない．器具もない．普通の住宅で座りながら教えられるのである．所謂学校の名に捉えられる人は，この学校に入る資格はない．修養の志に燃えて農村改造に突進せんとする戦士の学ぶと


農民福音學校の創設

一月十九日、日本農村ミッションが杉山元治郎、賀川豊彦、矢部喜好、吉田源治郎氏等によつて創立され、その第一着手として農民福音學校を二月十一日より開校する運びとなつた。
同校は日本農村の宗教的改造及び建設を目的とし、毎年農閑期に一ケ月間にわつて開校する。
校長　杉山元治郎　教務主任　吉田源治郎
講師　賀川豊彦、牧野虎次、村島歸之、杉山元治郎、吉田源治郎ほか科外講師十數人
教授科目　聖書、農村社會學、經濟學一般、キリスト教史、社會事業、兄弟愛史、農學通論、農村經濟學、農業實習
募集人員　十人限　但し農村青年に限る。食費半額補助あり
申込受附　二月五日限り。
申込所　兵庫縣瓦木村高木東口　賀川豊彦氏方　農民福音學校假校舍

図１　農民福音学校創設の記事
『雲の柱』第６巻２号（1927年２月）72頁

ころである.[5]

賀川はすでに1925年５月にデンマークを訪れ講演をして，国民高等学校を訪問している．そこでは先生がすべて学生と同一校舎に住み人格教育を行っていて，賀川も学生と食卓を共にしている.

農民福音学校は,「農村の経済的更生は農村の指導者を育成することにある」と考えて，デンマークの国民高等学校を模範とする学校である.

学校とあるが校舎らしきものはなく，何の設備もない寺子屋式の教育である．松下村塾をも模範とする人格と人格が触れ合う教育である．30名以下に厳選された生徒と多分野にわたる講師が一定期間，寝起きを共にして教育を行った．農民福音学校の「旗印」は「三愛主義，即ち，神を愛し，隣人を愛し，土を愛する」ことである.[6]

賀川は「農村を救ふ道―農村復活論」において，農村の疲弊状況，農村の死亡率の高さ，農村不振の理由を述べて，日本の農村をよくするには３つの条件がある，として，第一は土を愛する精神の確立，第二は神を愛する精神の確立，第三は人を愛する精神の確立を挙げる．そして以下のように土を愛する精神を説明する.

> 土を愛する精神が確立しなければ，農村は栄えるものではない―土に親しむ気が起らなければ，農村を改良することは出来ない.[7]

この後，ドイツに敗北したデンマークが「グルドゥヴィッヒ（N. F. S. グロンヴィ)」という宗教的愛国者が青年に土を愛する精神を教え，農民学校を

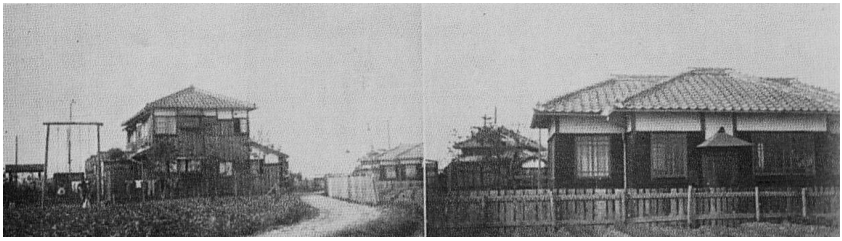


写真１　瓦木村の賀川家と杉山家　『大正デモクラシーと東北学院』127頁

起こして「遂に今日世界一の金持の国にすることができた」と論じている.[8]

最初の農民福音学校には，1927年２月11日から３月12日にかけて，兵庫県武庫郡瓦木村高木（現在の西宮市高木）にあった賀川の家の裏にあった八畳ほどの小屋を使用し，宿舎には杉山のいた長屋があてられた．杉山は賀川家の向かいに小さな家を建て，移り住んでいる．（写真１参照）

賀川が校主，校長は杉山元治郎，講師は賀川，村島，吉田の３名で，課外教師として京都大学，同志社大学，関西学院の教授や関西のキリスト教関係の牧師，社会事業家である林歌子，木村毅，牧野虎次，山本一清，三宅正一等が協力した．学課は，聖書，教会史，農学通論，社会問題，農村社会学，社会思想史，天文学，土壌学，肥料学，農用気候学，植物病理学，進化論，昆虫学，音楽，日曜学校その他であった．杉山は大阪府立農業学校出身者として学んだ知識を教えて生徒たちに感謝されている．定員は10名，学費は不要，食費は半額の７円50銭負担．全員寄宿して教室や食堂，寝室でも一日中

写真２　杉山先生の講義『農民福音学校』６頁

座臥一切を教育の場とした．教師はすべて奉仕であり報酬を求める者はなかった．

その後，賀川と杉山の唱導により，全国各地に三日間から一週間の短期農民福音学校が開催された．杉山はそこでも農村社会学，農村問題，社会思想史，農学通論，農村経営，植物病理，土壌学，肥料学，気象学を講じた．（写真２参照）

農民福音学校の生徒の多くは，1921年10月に賀川らによって結成されたイエスの友会会員であった．

３．農民福音学校の教育

賀川は，農民福音学校の聖書の教え方について以下の５点を指摘している．[9]

① キリストの教義ではなくキリストの愛を明瞭な言葉で教える
② 先生は座って教え，学生と一所に食事し寝る
「先生は偉いもので汝等は学生だぞと言ふやうにしない」
③ キリストの日常生活，早起，労働，休息，弟子との生活等，衣食住についてのキリストの教訓を話す
④ 聖書を社会改造の動機になるように，講義風ではなく生活の動機になるように教える
⑤ 聖書の高等批評等は教えない

先生は「下座奉仕」の精神で学生と生活をともにして教育する方法である．

黒田四郎は第一回農民福音学校の思い出を以下のように述べている．

> これは大変なことで，極度に忙しい中での奉仕だったから，ハル夫人はじめ家人の御苦労は言葉に絶するものであった．そして先生もできるだけ旅行をやめて毎日朝の時間に，聖書の講義をはじめ，立体農業の実際に至る迄講義をされた．その上時間を作って学生と一緒にフロにはいり，その背中を洗うまでされた．松

下村塾の吉田松陰先生もかくあったかと思われ，私など余りのことに涙ぐんだほどであった．[10]

1932年の第６回農民福音学校は，米国からの献金約700ドルと小説『一粒の麦』の印税で瓦木村に新築された一麦寮にて開催された．[11]

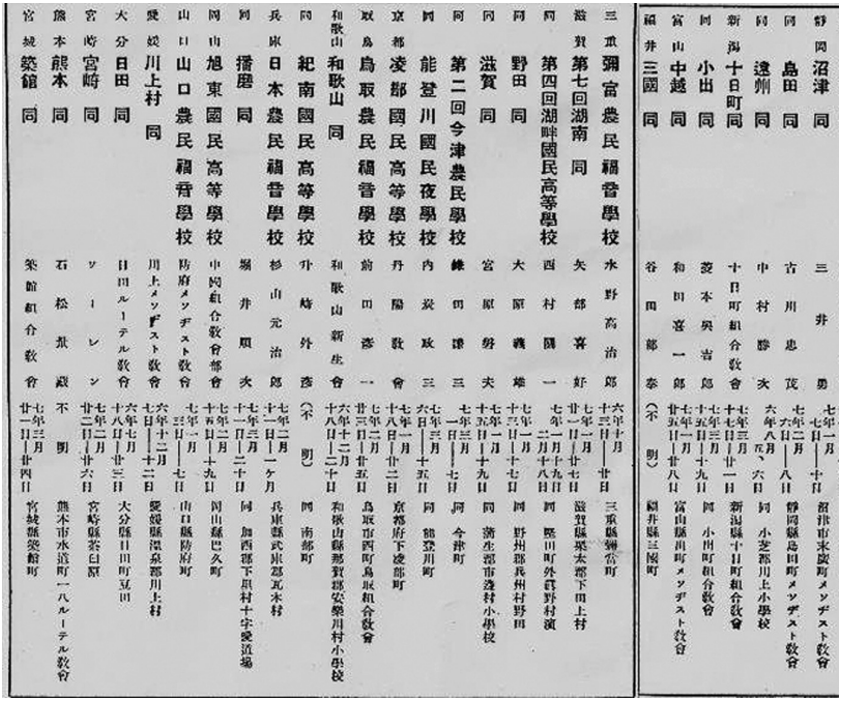
1931年から1932年にかけては，農民福音学校は全国52の地で開催された．（図２参照）

1936年，一麦寮において第11回日本農民福音学校は，２月から１か月間に開催された（写真３参照）．農民福音学校卒業者名簿を見ると，入学者は22名いて，近畿，四国，中国，九州地方からの参加者が16名で多く，岩手県，福島県，静岡県，三重県からの参加者もいた．[12]

講師には，賀川，吉田源治郎，升崎外彦，杉山元治郎，藤崎盛一等がいた．各講師の授業内容については参加したイエスの友会会員である野村彦忠が以下のように述べている．

賀川先生の聖書の講義，自然科学，原子学と，むつかしい話ばかりでした．杉山先生は農政と農民組合運動，農業の歴史等でした．川瀬先生はニュージーランドと牧草，ニュージーランドと日本語のよく似ている事について話されました．藤崎先生の立体農業，農産加工など，升崎先生の伝道物語，仏教よりキリストへの改宗の苦しみ．父とのいざかい．実に感動させられました．沖野先生の迷信と信

写真３　農民福音学校が開催された一麦寮　『農民福音学校』４頁



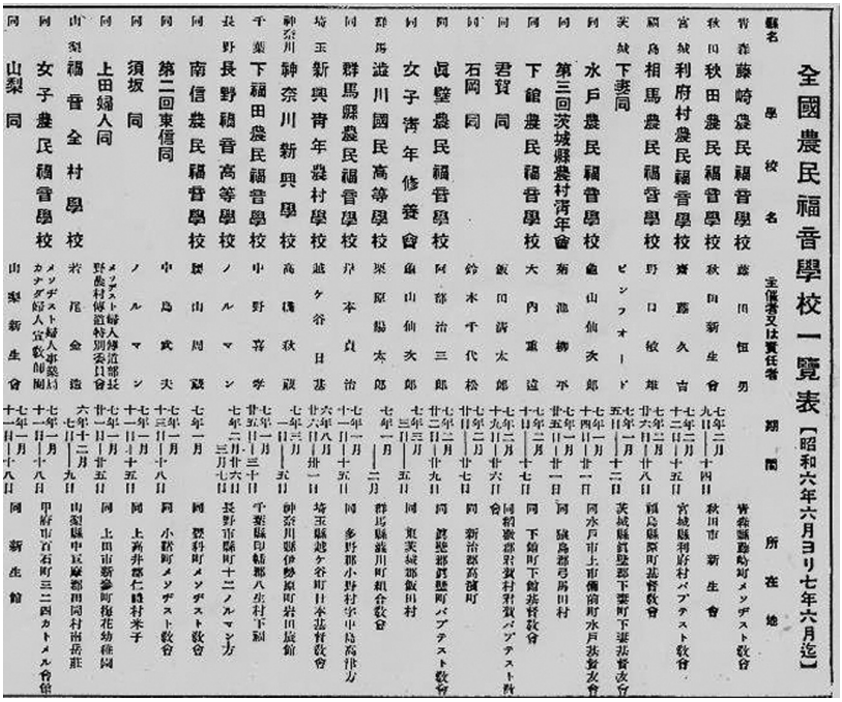
三重	彌富農民福音學校	水野高治郎	六年十月十三日—廿日
滋賀	第七回湖南同	矢部喜好	七年一月廿一日—廿七日
同	第四回湖畔國民高等學校	西村關一	七年一月十九日—二月十八日
同	野田同	大原義雄	七年一月十三日—十七日
同	滋賀同	宮原勝夫	七年一月十九日—廿五日
同	第二回今津農民學校	鎌田謙三	七年三月廿一日—七日
同	能登川國民夜學校	内炭政三	七年三月十五日
京都	凌都國民高等學校	丹陽敬會	七年一月十八日—廿二日
鳥取	鳥取農民福音學校	前田彦一	七年二月廿三日—廿五日
和歌山	和歌山同	和歌山新生會	六年十二月十八日—二十日
同	紀南國民高等學校	牛崎外彦	七年二月十一日—一ケ月
兵庫	日本農民福音學校	杉山完治郎	七年三月十一日—二十日
同	播磨同	堀井順次	七年二月十日
岡山	旭東國民高等學校	中岡組合教會部會	七年二月十九日
山口	山口農民福音學校	防府メソヂスト教會	七年一月三日—七日
愛媛	川上村同	川上メソヂスト教會	六年十二月七日—十二日
大分	日田同	日田ルーテル教會	六年七月十八日—廿三日
宮崎	宮崎同	ソーレン	七年二月廿二日—廿六日
熊本	熊本同	石松孫藏 不明	熊本市水道町一八ルーテル教會
宮城	築館同	築館組合教會	七年三月廿一日—廿四日
静岡	沼津同	三井勇	七年一月七日—十日
同	島田同	古川忠茂	七年二月六日—八日
同	遠州同	中村勝次	六年八月五—六日
新潟	十日町同	十日町組合教會	七年三月十七日—廿一日
同	小出同	菱本吳吉郎	七年三月十五日—十九日
富山	中越同	和田喜一郎	七年一月廿五日—廿八日
福井	三國同	谷間郁泰（不明）	福井縣三國町

図２　1931年から1932年において開催された農民福音学校

仰を面白く話されました．山本先生の天体について，特に星座に付いて詳しく教へてくださいました．其の間特高警察官が内偵に来ていたそうです．三愛精神による農法を探し，信じ一ケ月の福音学校も終了さして頂きました．[13]

「瓦木の憶い出」と題して第１回日本農民福音学校に参加した沢田弘造は，以下のように述べている．

賀川先生が言はれました．「僕は，いろんな仕事をやってきたけれども，この仕事だけは後に，必ず残る」と，一粒の麦です．捧げた者は残ります．当時は昼も夜も二時間のぶっ通し授業，塾，寺子舎式です．食事は玄米食でしたが，副食物は豊富で，栄養のバランスよく，生まれて初めて，驚きと感謝で沢山よばれました…藤崎先生の『立体農業』のうち『栄養学』の講義は真剣になって聴きました．



全國農民福音學校一覽表【昭和六年六月ヨリ七年六月迄】

縣名	學校名	主催者又は責任者	期間	所在地
青森	藤崎農民福音學校	藤田恒男	七年二月九日—十四日	青森縣藤崎町メッヂスト教會
秋田	秋田農民福音學校	秋田新生會	七年二月十二日—十五日	秋田市新生會
宮城	利府村農民福音學校	齋藤久吉	七年二月十二日—十五日	宮城縣利府村バプテスト教會
福島	相馬農民福音學校	野口敏雄	七年二月十六日—廿八日	福島縣原町基督教會
茨城	下妻同	ピンフォード	七年一月五日—十二日	茨城縣筑波郡下妻町下妻基督教會
同	水戸農民福音學校	亀山仙次郎	七年一月十四日—廿一日	同水戸市上市備前町水戸基督友會
同	第三回茨城縣農村青年會	新池柳平	七年一月廿五日—廿一日	同
同	下館農民福音學校	大内重造	七年二月十日—十七日	同下館町下館基督教會
同	君賀同	飯田清太郎	七年二月十九日—廿六日	同稲敷郡君賀村君賀バプテスト教會
同	石岡同	鈴木千代松	七年二月廿日—廿七日	同新治郡高浜町
同	眞壁農民福音學校	阿部治三郎	七年二月廿二日—廿九日	同眞壁郡真壁町バプテスト教會
同	女子青年修養會	亀山仙次郎	七年三月三日—五日	同東茨城郡飯田村
群馬	澁川國民高等學校	栗原陽太郎	七年一月—二月	群馬縣澁川町組合教會
同	群馬縣農民福音學校	井本貞治	七年一月十五日—十五日	同多野郡小野村宗甫高井方
埼玉	新興青年農村學校	蔦ケ谷日基	六年八月廿六日—廿一日	埼玉縣越ケ谷町日本基督教會
神奈川	神奈川新興學校	高橋秋蔵	七年二月一日—五日	神奈川縣伊勢原町岩田辰館
千葉	下福田農民福音學校	中野等孝	七年一月三十日—廿三日	千葉縣印旛郡八街村下福
長野	長野福音高等學校	ノルマン	七年二月廿六日—三月七日	長野市縣町十二ノルマン方
同	南信農民福音學校	堀山周蔵	七年一月	同
同	第二回東信同	中島武夫	七年一月十八日—十三日	同小諸町メッヂスト教會
同	須坂同	ノルマン	七年一月十五日—十一日	同上高井郡仁礼村米子
同	上田婦人同	メッヂスト婦人傳道部長野藤村傳道特別委員會	七年一月廿五日—廿一日	同上田市新參町報花幼稚園
山梨	福音全村學校	若尾金造	七年二月九日—十二日	山梨縣中巨摩郡田富村南岳莊
同	女子農民福音學校	メッヂスト婦人傳道局カナダ婦人宣教師團	七年一月十八日—十一日	甲府市百石町三二四カトメル會館
同	山梨同	山梨新生會	七年一月十八日—十一日	同新生會

『神の国新聞』706号（1932年７月13日）

御蔭で，只今も『教え』の通りに，実行しています．[14]

農民福音学校では，聖書を中心に，農業，宗教，科学等広範囲にわたる教育が行われたことが分かる．農民福音学校で特に教えられたのは立体農業であった．

４．立体農業

立体農業は，従来の農業が，田畑という「平面」に限定して行われていたのに対して，「立体」すなわち山間部も対象にして農業経営を積極的に行うことであり，多角経営的な農業でもある．また，農作業の機械化，電化，協

同組合化も目標とした[15]．具体的には，山の斜面にくるみ（ペカン）の木を植え，クルミの実を食べる牛や豚や鶏を飼育する．その排泄物は木の生育に生かされ，畜産物加工品も製造するという農産物多角経営のことである．

農民福音学校講師である藤崎盛一は，立体農業は「土地空間の立体的利用の農法」で，作物，樹木，家畜，昆虫魚其々を組み合わせて土地を同時に立体的に使用することであり，以下の５点の植物と動物を選択することを勧めている[16]．

① 食糧問題解決になる蛋白質，澱粉の供給源（大豆，落花生，胡桃，鶏卵，牛肉）
② 貯蔵，加工が容易な収穫物を生産するもの
③ 栽培が容易で，飼育が簡単なもの（山羊，豚）
④ 食糧問題を解決する植物と動物の連鎖（団栗やクローバーの根で豚を飼育する）
⑤ 用材として価値のあるもの（果実を採取できるもの）

藤崎はまた，「山羊」と題して，「山羊は家畜中最も丈夫にして，気候に支配されること少く，至る處に飼育が出来，又非常に粗食に耐へると共に，飼料の範囲多いために，飼育が容易で，本邦の如く山野多き国に於ては適当な有利な家畜である」と唱え，山羊の肉，毛，皮だけでなく，特に山羊乳の栄養価の高さを説明している[17]．

奈良県馬見村出身の貧農であった野村彦忠は，農民福音学校で学んだ立体農業を馬見村で実施して，以下のように収穫が増加した．

> 立体農業の指導を受けることにより，農作業は楽しいものと一変した．山の畠にはペカンを植え，多くの柿の木，ぶどうも棚から房を垂れ，くぬぎの原木には多くの椎茸の菌をうえ込み，たくさんの収穫を得るようになった．家の裏庭から納屋にかけて山羊が十二，三頭，豚も飼育した．山羊は乳を出し病人や知り合いにも配ることが出来，ハムや燻製の指導も受け，食生活も豊かになった[18]．

収穫物が増加したことによって貧困状態から抜け出し，食生活が豊かにな

り，余剰品で困窮者を助けるようになったことが分かる．生活の大きな変化である．野村は周辺の農民にも立体農業を伝えた．保育園や教会の設立に経済的に援助することもできた．

5．農民福音学校の進展

東京農業大学を卒業した藤崎盛一は，1931年から農民福音学校で学び，農民福音学校専任巡回講師として活動した．1932年５月に，藤崎は東京府多摩郡祖師谷に，農村を指導するために土地を購入して家を建てた．そして，日曜学校を開校し，農芸研究会も開始した．さらに鶏卵貯蓄組合を結成して卵を販売し，その利益で子豚４頭を農家に委託飼育させ，農家も良い収入を得

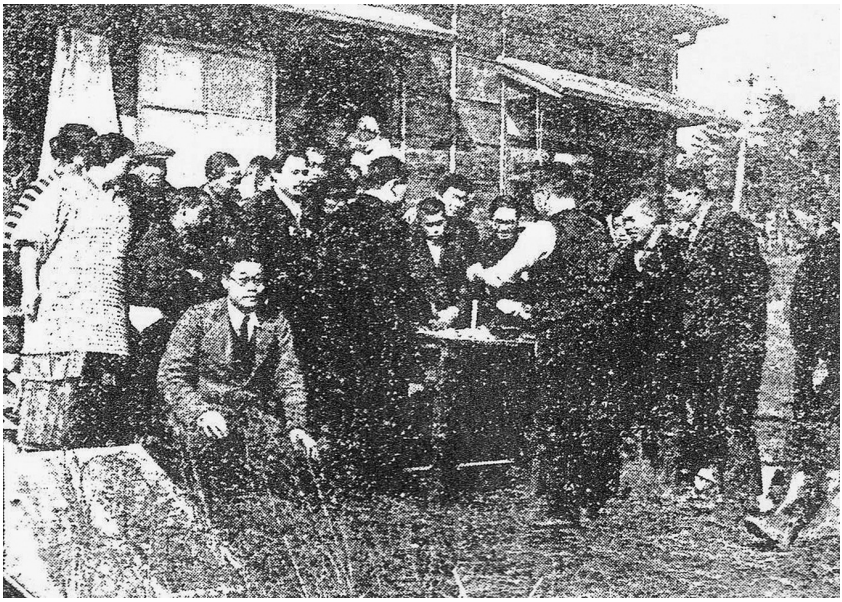


写真５　武蔵野農民福音学校豚肉加工の実習　『火の柱』60
（1933年３月10日）７頁

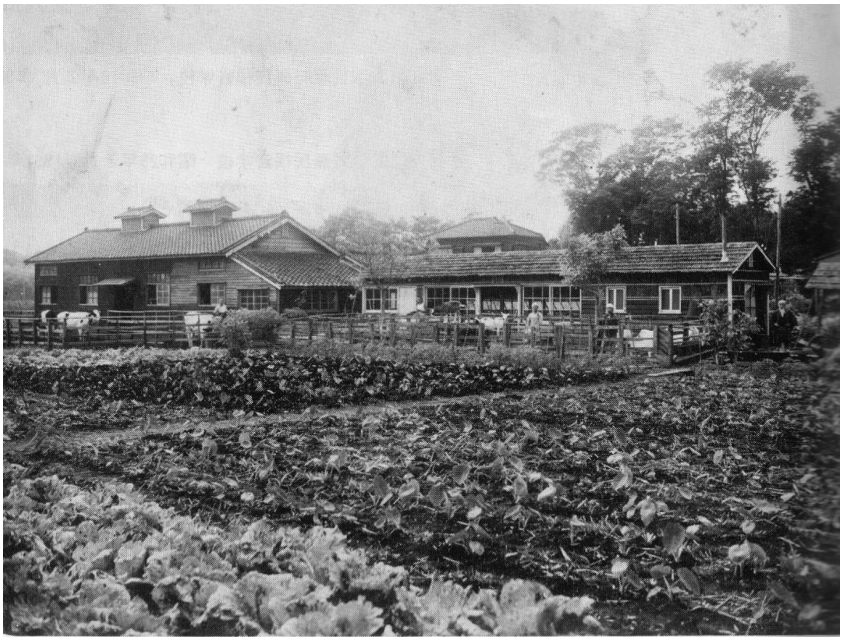


写真６　武蔵野農民福音学校農場と畜舎　左が乳牛舎・中央が山羊小屋・右が豚舎　『農民福音学校』７頁

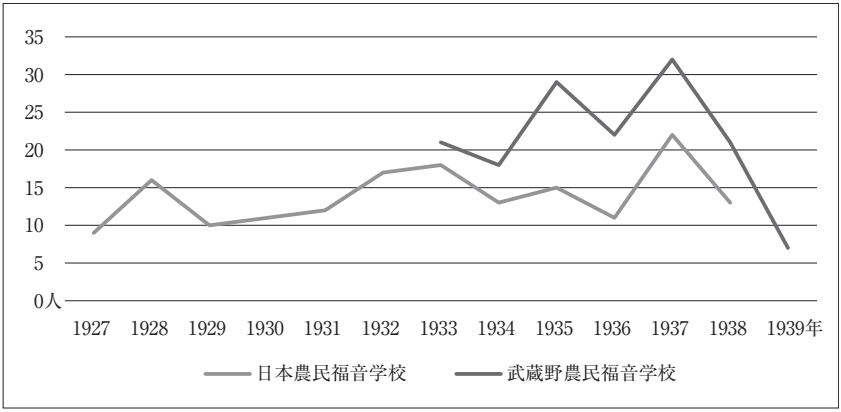
た.

1933年１月に藤崎家の６畳と３畳の部屋で武蔵野農民福音学校が開校した．校長は賀川であり，講師には杉山をはじめ「一流の学者」ぞろいであった．賀川は近くの松沢村の自宅から自転車の荷台に乗って登校した．全国から正規生20数人，付近から聴講生もあり，合計30余人になった.[19]

日本農民福音学校と武蔵野農民福音学校は，順調に進展したが，戦争の時代になると衰退して，数年間は閉校した．（表１参照）

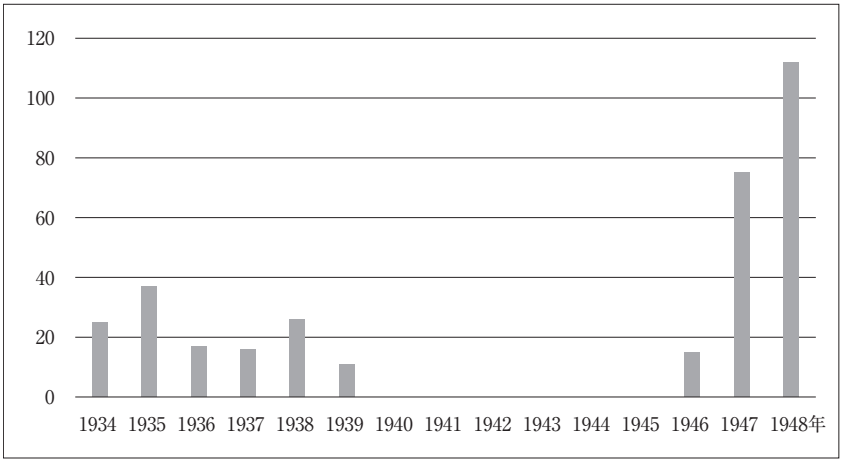
アジア・太平洋戦争が終わると，農民福音学校は，戦前よりも３倍近くの数で全国に進展していった．（表２参照）

表１　日本農民福音学校と武蔵野農民福音学校の卒業者の推移



参考：『農民福音学校』196-203頁より著者作成

表２　農民福音学校の開校数の推移



参考：『雲の柱』第５号　5-16頁より著者作成

〔注〕

（1）『聖愛の種まく人』119頁.『大正デモクラシーと東北学院―杉山元治郎ト鈴木義男―』東北学院2006年，114頁.

（2）『イエスの友会人物伝』イエスの友会出版部2004年.

（3）『火の柱』第13号　1927年３月25日.

（4）同.

（5）「農村福音学校と杉山元治郎」『大正デモクラシーと東北学院』127-128頁.

（6）杉山元治郎「神，人，土に対する愛」『火の柱』97号（1936年）116頁.

（7）『神の国新聞』687号（1932年３月２日），３頁.

（8）N. F. S. グロンヴィの生涯と思想，そしてデンマーク国民高等学校の教育内容に関しては以下を参照．白石正彦「没後150年のN. F. S. グロンヴィとデンマークにおける国民高等学校及び農業協同組合の持続可能な発展」『協同組合原則改定の議論をふりかえる／フランスとデンマークの協同思想より学ぶ―２つの公開研究会より―』（生協総研レポートNo. 99　生協総合研究所，2023年３月）

（9）賀川豊彦「農民福音学校に於ける聖書の教へ方」『火の柱』97号（1932年）巻頭.

（10）『農民福音学校』37頁.

（11）『農民福音学校』立農会1977年，190頁.

（12）同，199頁．1931年５月3-4日に，堀江宅聖堂において農民福音学校が開校された．講義主題は立体農業の教育であった．『創立50周年記念誌　恵みの旅路』，10頁.

（13）同，126頁.

（14）『農民福音学校』122頁.

（15）賀川の立体農業に関する著書には以下のものがある．『農村更生と精神更生』;『農村社会事業』;『立体農業の研究』;『小説一粒の麦』;『世界食糧資源論』;『立体農業の理論と実際』（藤崎と共著）．『小説一粒の麦』の広告には「土に対する愛，隣に対する愛，神に対する愛さへあれば，日本内地だけでも八割五分の山が食糧資源の泉となり，人間相愛の巣となることを私は信ずる．私はこの小説に於て，この三つの愛を実現せんとする同志達のことを書いた」と記されている．『火の柱』41号（1931年３月20日），８頁.

（16）藤崎盛一「立体農業とは？」『火の柱』51号（1932年）３頁.

（17）『火の柱』55号（1932年10月10日）6-7頁.

（18）『創立50周年記念誌　恵みの旅路』17頁.

（19）『農民福音学校』